



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年12月号)

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



皆さんと共に活動を推進してまいりました2023年も残りわずか。

おかげ様で、J P子どもの森づくり運動は順調に広がっています。

これからも、せいっぱい皆さんの活動をサポートさせていただきます。

来年もよろしくお願ひ申し上げます。

写真は、紅葉した東北のどんぐりの苗木。間もなく落葉して春を待ちます。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動 2023年をふりかえって
2. 植樹活動レポート：福井県「大野幼稚園」
3. 「全国集会&研修会2024」参加者募集案内（定員間近！）
4. リレーエッセイ（2023年12月号）

日本郵政グループからのお知らせ

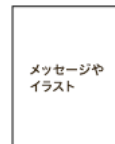
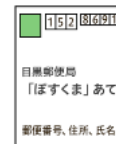
日本郵政グループは「J P子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら

ぼすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは日本郵便のキャラクターです。ぼすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぼすくま」あて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。



YouTube
ぼすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

1. JP子どもの森づくり運動 2023年をふりかえって

おかげ様でJP子どもの森づくり運動は、2023年も充実した活動が実践できた1年となりました。今月号では皆さんと共に1年をふりかえり、今年得られた成果を共有したいと思います。詳細はホームページをご覧ください。

1) 夏期オンライン講座

2023年の年間テーマである「幼児期のSDGsを考える環境講座」として、生活にもっとも身近な「水」をテーマに、水ジャーナリストの橋本 淳司さんのオンライン講座を実施しました。すぐれた幼児期の環境教育は、保育者の高い環境意識から生まれます。保育者の皆さんに、水を通じて持続可能な環境について考えてもらう機会を提供しようという企画です。新しい発想を得られる有意義な講座でした。



橋本 淳司氏

2) 東北復興グリーンウェイブ2023

JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の東北での植樹活動は、宮古市、山田町、大槌町、さらに釜石市に広がりました。東北のどんぐりを苗木に育て、大槌町に届けてくれる全国の参加園も100園を超えました。



大槌町での植樹会

3) 共用植樹フィールドの開発

今年も全国で、地域のどんぐりを苗木に育て、地域の森に植える活動が行われています。事務局による活動サポートとして、全国で共用植樹フィールドの開発を推進していますが、2023年も、関東（首都圏）エリアにおいて千葉県と所沢市の2か所で共用フィールドを新規開発しました。



千葉県「内田の森」キックオフイベント

4) 保育者サポート活動

2023年も、「自然・環境体験活動」「保育防災認定講座」「園庭緑化運動」の3つのテーマで、保育者の実践をサポートする活動を継続しています。「自然・環境体験活動」では、全国でお芝居の力と自然体験講座による「どんぐりSDGs劇団」全国キャラバンを実施しました。



「どんぐりSDGs劇団」（あおぞらウインクルム保育園）

5) 普及活動：「こどもの森づくりフォーラム」

子森ネットは、2023年から、林野庁、(公社)国土緑化推進機構等と共に、森をフィールドとする幼児期の自然・環境体験や森林環境教育の機運を高めることを目的に、「こどもの森づくりフォーラム」の運営に携わることとなりました。2023年は埼玉県で、2024年は愛媛県で開催します。



フォーラム埼玉大会基調講演（汐見先生）

2. 植樹活動レポート：福井県「大野幼稚園」

5月27日（土）大野市前坂キャンプ場にて、どんぐりの苗木の植樹に親子で出かけました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、植樹は中止となりましたが今年度は12組の親子と職員で約40本の苗木を願いを込めて植樹しました。色鮮やかな新緑のもと、懸命に苗木を植えるお父さんお母さんと一緒に、小さな手で苗木を植える子ども達の姿が印象的でした。また、大野郵便局の方も駆けつけて下さり、子ども達と一緒に汗を流しながら植樹してくださいました。（園レポートより）

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1) 日時：2023年5月27日(土) | 3) 参加者：園児、保護者、卒園児、保育教諭 41名 |
| 2) 会場：大野市前坂キャンプ場 | 4) 日本郵政グループ参加者：大野郵便局 酒井総務部長 |



3. 「全国集会&研修会2024」参加者募集案内（定員間近！）

「全国集会&研修会2024」のテーマは「非認知能力を育む“遊び”を考える」としました。J P子どもの森づくり運動が提唱する子どもたちの自然と環境の体験活動の実際は“野遊び”です。子どもたちは、自由で自主的な“遊び”を通じてのみ、「非認知能力」としての「生きる力」を育みます。ポストコロナの時代をみすえ、あらためて子どもの「体験」の原点である「遊び」について考え、議論したいと思います。年に一度の全国の参加園が集う貴重な機会です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。定員がせまり、募集人数が少なくなっています。早めのお申し込みをおすすめします。詳細は、下記QRコード、及びホームページをご参照願います。

●開催概要

- 1) 開催日：2024年2月13日(火)、14日(水)
- 2) 会場：「大田区産業プラザ PIO」3F 特別会議室
(東京都大田区南蒲田1-20-20)
※京浜急行「京急蒲田」駅より徒歩約3分
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催：国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 内容

- 基調講演：東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏
- 事例発表：日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹氏 他



「全国集会&研修会2024」QRコード



汐見先生

4. リレーエッセイ (2023年12月号)

岩井 光子さんによるリレーエッセイ「SDGs入門」の今月号は、目標9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」がテーマです。CO2削減に寄与する日本の若き発明者・村木風海さん（村木くん）のお話です。頼もしいですね。

【SDGs入門】

日本でも若き発明家が話題に CO2を回収・貯留するテクノロジーの現在地

ライター 岩井 光子



小さい頃、おじいさんがくれたホーキング博士の宇宙冒険小説に載っていた「青い夕日」に衝撃を受けたことが研究生生活の始まりだった、と23歳の若き発明家、村木風海（かずみ）くんは説明していました（火星で見る夕日は青いのだそうですね！）。

火星に行ってみたい一心から、17歳の時にスーツケースサイズのCO2回収装置「ひやしー」を開発。火星の大気は96%がCO2なので、人が降り立つにはCO2を除去しなきゃと村木くんは考えたのです。後に村木くんは自分の研究が地球温暖化対策にも応用できることに気づき、火星移住と共に「地球を救う」こともテーマになりました。村木くんは現在も一般社団法人・炭素回収技術研究機構CRRAの代表理事として日々ラボで研究に勤しんでいます。

村木くんが研究している分野は「ジオ・エンジニアリング（気候工学）」という人為的な気候変動対策の一つで、専門用語ではDAC（ダイレクト・エア・キャプチャー＝直接空気回収）などと呼ばれます。

CO2の排出をあれこれ工夫して減らすより、手っ取り早く大気中のCO2を回収してしまおうという力技的なところがあるジオ・エンジニアリングは、気候変動対策としては異端視された時期もありました。



村木くんが作った家庭用CO2回収装置「ひやしー」

しかし、最近風向きが変わっています。今年13日まで中東のドバイで開かれていた国連の気候変動会（COP28）の合意文書に「化石燃料から脱却する」ことが初めて盛り込まれましたが、その中に「大気中のCO2を回収・貯留する技術を加速させる」という表現も入ったのです。

この技術開発や実用化に熱心なのは、産油国や大手石油会社です。大気中のCO2を除去する分、化石燃料の使用が相殺でき、事業が継続できるという目論見もあるようで、お金のまかせた安易な導入には根強い批判があります。

世界で初めてDAC大規模工場の実用化に成功したのはスイスのクライムワークス。今年11月にはサンフランシスコのエアルームが「全米初」とうたうDAC商用プラントを開設しました。

エアルームの記者発表資料を見てみると、CO2の回収には豊富な石灰石を繰り返し利用するサステナブルなシステムを採用。電力は全て再生可能エネルギーを使用し、地元の化石燃料業界で働く労働者を高給で雇用。利益は地域に還元するコミュニティ・ガバナンスを取り入れるなどクリーンで公平な経営策を強調していて、時代が変化しているなど感じました。

背景には、深刻な気温上昇があります。世界気象機関（WMO）は、今年の世界の平均気温が産業革命前から1.4℃上昇する見込みであると発表しました。パリ協定で科学者たちが目標に掲げた1.5℃まであとわずか。対策の一つとして、ジオ・エンジニアリングが欠かせないことは、もはや認めざるを得ない状況だということなのだと思います。

目標9に「産業と技術革新の基盤をつくろう」があります。

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。